

令和6年度 栃木県立馬頭高等学校 第2回学校運営協議会（司会：教頭 議事録：田中）

1 開会【青木教頭】

2 会長挨拶【若園会長】

今回は全体でご意見を募ってもなかなか論議になりにくいということでグループ討議を設け、その中で課題を抽出していきたいと考える。活発な議論をお願いしたい。

3 校長挨拶【小島校長】

2学期も過ぎて2か月目、教育活動も順調に来ている。3年生の就職も内定が順調である。進学も手続きが進んでいる。本日も那珂川学が実施されている。部活動ではレスリング部が夏に行われた全国大会に5階級で出場している。水産科では、今月末、栃木県宇都宮市で開催される全国産業フェアに参加する。マロニエプラザでは水産科の活動報告と生産物の販売等を行う。「課題研究」の部門ではライトキューブにおいて全国の水産高校の代表として発表するグループもある。校長室の前廊下に掲示してあるが、わかあゆこども園との交流で、園児の皆さんからのお礼のお手紙を掲示してある。先月の広報「なかがわ」ではそば打ち体験をした本校生徒の様子が2年半ぶりに表紙を飾っている。月末には議会との意見交換会も予定されている。町との交流を通して様々な学習の機会をつくることができている。町からいただくお声にすべてお応えすることはできないものの、本校の授業と関連付けながら多様な学習活動を展開していきたいと考える。以後の各係からの説明のあとには、新たな取り組みやこれまでの取り組みについてご意見を頂戴する機会を設けたのでどうぞよろしくお願いしたい。

最後に2点。先週の土曜日とちぎテレビ「とちブラ」で本校水産科が紹介されている。再放送が来週17日（木）にあるのでご覧いただきたい。また、お待たせしたが、「ナカスイ」第3弾が発行されるのでお楽しみにお待ちいただきたい。

4 議事（進行：若園会長）

（1）学校より報告（議題⑥を先行報告）

⑥令和6年度第1回学校運営協議会議事録

若園議長：

- ・ご覧いただき、何かあったらご意見をいただきたい。

①一日体験学習について

田中教務主任：説明【資料1】

- ・今年度は集合開催から各教室での全体説明に変更して実施。
- ・昨年全体説明を行った部分の各説明は前撮り動画の放映により対応した
- ・上記2点以外については、昨年度とほぼ同じ内容で実施。
- ・今年度の参加者数は普通科1クラス（1クラス減）になったにもかかわらず参加中学校数が昨年度を上回り（昨年度42校今年度43校）、参加者数も健闘した（昨年度104名今年度95名）。
- ・水産科では北海道、福岡県を含み、県外4名が参加し、関心度の高さがうかがえた。
- ・アンケートの結果からは、「ぜひ馬頭高校に進学したい」と答えた割合が昨年度より増えている。

②インターンシップ実施状況について

馬籠主幹：説明【資料2】

- ・2年生全生徒が参加。水産科19名が7月に実施、普通科28名が10月に実施予定。
- ・水産科はすべて水産関係の事業所。
- ・実施後の面談において専門分野に関心を新たに持った生徒が増えたとの担任からの報告があった。
- ・普通科では選択科目の農業の影響から農業分野を希望する生徒があった。多種多様な業務において実施する予定である。

若園議長：質疑

- ・事前指導や事後指導は行っているか。指導を通して変化は伺えたか。

地域協働部長馬籠主幹：回答

- ・前後の指導は行っている。アンケートの集計はこれからだが、前述の通り進路意識に変化が見られている。

吉成副会長：質疑

- ・受け入れ事業所は就職の募集の確約があつての受入れか。

地域協働部長馬籠主幹：回答

- ・募集の確約はない。

青木教頭：回答補足

- ・インターンシップがきっかけとなり、アルバイトにつながり、それが就職までつながった例もある。

若園議長：質疑

- ・生徒は希望している事業所に行けるのか。本当は別の事業所に行きたかったのに、というケースはないのか。

小島校長：回答

- ・キャリア教育と就業体験は別である。普通科でインターンシップを実施している高校は非常に少ない。本校は水産科で培った地域との連携を踏まえて普通科でも実施している。就職先の資料を見ていただくとお分りの通り、就業先と受入れ先は必ずしも一致しない。あくまで体験学習として学びの中の一つとして実施している。

若園議長：質疑

- ・こども園や学校教育に関心がある場合は、資格取得等のアドバイス等は事後に行うのか。

地域協働部長馬籠主幹：回答

- ・生徒の進路希望と合致した場合は行う。

③「通級による指導」について

教育相談係長山：説明

- ・個人情報であるので口頭にて説明し、資料はなし。
- ・本校では通常教室における特別支援教育の充実を図るため校内研修を実施している。
- ・教育相談係を中心として、授業内での支援も行っている。
- ・1 学期は昨年度と同様、生徒の授業中の様子を把握し、面談等を通して生徒の実態把握の期間とした。
- ・夏休みの保護者参観の際に学校での様子を伝えながら、個別の支援計画作成の必要性の有無などを確認した。
- ・2 学期は作成された個別の支援計画を活用しながら通常学級において個に応じた支援の充実に力を入れている。
- ・学校生活における困難の改善や克服への課題が大きい生徒への支援に対しては保護者と生徒の意向を踏まえ、放課後の時間を活用しながら通級指導を行っている。
- ・生徒 1 名に対して、2 名の教員で対応している。教科の補充指導ではなく、各生徒の課題に合わせたワークシート等を活用しながら対話を通じた指導を実施している。
- ・通級指導で学んだことを通常学級での日常生活に活かせること、卒業後の社会生活で活かせるようになることを通級指導の目的としている。
- ・該当生徒は定めた目標達成に向け、今年度も前向きに取り組んでいるところである。

益子委員：質疑

- ・2 学期になり、後期計画は当該生徒に周知してあるか。

教育相談係長山：回答

- ・通級指導対象者のみならず、個別支援計画書の対象者については生徒を通じてすでに配布済みである。

益子委員：質疑

- ・通級指導の対象生徒の場合において、例えば授業の際、一般的と思えるある言葉がわからない表現である場合もあるようだ。その一つの表現で指導が進んでしまってわからないまま、指導教員および他の生徒と対象生徒との意思の疎通ができなくなることでトラブルが生じたことがあった。そういった特性に配慮をしていただければありがたい。

教育相談係長山：回答

- ・それぞれの生徒がそれぞれの課題に取り組んでいる。教員側もそれを掌握できるよう研修等を通じて理解を深めていきたい。また、通級指導の中でも、本人が思っていることを引き出せるような対話も深めていきたい。

④本年度の進路状況について

進路指導主事藤田：説明【資料3】

- ・資料3の上の表については第1回の説明の通り。11月に第2回の進路希望調査を実施するので、第3会時はより正確なデータを提示できる。
- ・今年度の3年生の進路状況については表のとおり。就職希望者が63%、進学希望者が31%、その他が6%になる。
- ・進学希望者のうち、今後受検の短大希望者を除き、全員が合格内定。
- ・就職希望者について、求人数は6月末段階において非常に多かった昨年度よりも10%増しであった。民間就職先の学校推薦希望者は20名。近隣自治体の事業所を原則公開という制限を設けた。生徒への求人数はおよそ200社であった。
- ・結果として、第1段階での就職試験は数名を除き、全員合格。その数名も第2陣の試験を待っている状況である。
- ・非常に売り手市場で、例年ならば大学生のみの求人しか行わない事業所が高校生にまで求人を出している状況で、雇用条件もベイアップの影響を受け、非常に良好である。
- ・今年度は原則として保護者生徒の意向を優先し、学校側からの一方的具体的な事業所の斡旋は行っていない。生徒たちはよく相談し、自分の状況を鑑みてじっくり丁寧に選んだなという印象。
- ・地域柄、外に出でのガイダンス等は難しい状況であるが、行事として取り入れたり、また、外からの来校によるガイダンスを加えながら、他校と比較しても豊富なキャリア教育の取り組みをしてきたといえる。
- ・今年度残念だったことは4年制の大学進学希望者がいなかったことが挙げられる。1年生まで含めた希望状況でも、ここ数年の中では少ない印象である。

薄井委員：質疑

- ・町内事業所には何人が就職したか。

進路指導主事藤田：回答

- ・管内（那珂川町・那須烏山市・さくら市）で14名。町内は那珂川町役場を含め、6名程度である。

岡委員：質疑

- ・近隣の会社のみならず、宇都宮地区など対象を広げるべきではないか。

進路指導主事藤田：回答

- ・間口を広げる重要性は理解している。ただし、求人票の公開には手間と時間がかかる。直接求人票を届けに来て下さった遠方の事業所の求人票は含めている。また、ハローワーク主催のWEB求人というサイト経由により、管内以外の就職先にアクセスすることは可能である。そこから生徒が挑戦したが、不合格になってしまった。

岡委員：質疑

- ・就職先の情報提供にあたり、生徒が離職せず、やりがいを見出せるようなところを幅広く提供してあげたい。

進路指導主事藤田：回答

- ・本校に限らず高校卒業生の早期離職した状況を分析すると、本人の意思に反した学校側からの斡旋であったケースである場合が多いようだ。今年度の新しい試みとして、進路決定にあたる前段階に保護者にも来校していただき、進路手続きの一斉説明会を開催した。今後の卒業生の動向にも追跡していきたいと考えている。

武田委員：質疑

- ・進学では、学校からの推薦により入学した学生が退学してしまうと、次の入学者選考に影響が出るケースがあると認識しているが、本校での就職の場合はどうか。

進路指導主事藤田：回答

- ・最近の傾向としてなくなりつつある。今年度卒業生が退職したケースがあったが、こちらから訊いたタイミングで教えていただいた。売り手市場の状況で、学校側に会社側が配慮している状況といえる。

若園議長：質疑

- ・今年度岩手大学への進学があったので、進学者増に傾くかと期待していたが、1・2年生の状況はどうか。

進路指導主事藤田：回答

- ・今後増えていく可能性があるのではと考えている。個別指導を含めた国公立大学への進学に向けた取組みを進められるように準備をしていきたい。

若園議長：ご提案

- ・大学も受験方法の多様化が進んでいる。倍率的にも入りやすくなっているのではないか。4大が数名いる、専門学校も、公務員も数名いて就職が充実しているという、進路の多様化が馬頭高校の魅力化にもつながるのではないか。

⑤学校の様子

青木教頭：説明【資料4】

- ・各行事の様子を写真で示したものである。例年通り、水産科、進路関係、特別活動部の行事を掲載している。様々なところで生徒の活躍が見られる。広報「なかがわ」の記事も載せている。地域おこし協力隊の石川さんや本校卒業生の山崎さんの記事も載っている。

(2) グループ討議（3つグループに分かれて実施）

①本校に望むこと

②①を実現するための具体策

上記の議題について、意見交換を行った。意見交換後、各班から報告を受け、全体で共有した。各班からの報告を取りまとめて記載する。

[1班]

- ・進路についてより充実させるという論点で話し合いを行った。
- ・民間の学習塾が少ない地域の実情の中で、公教育や家庭学習が重要になっている。馬頭高校が実践する多様な体験的学びは非常に良いのではないか。それが中学生の馬頭高校への進学意欲になり、在校生の入学後の進路選択に大きく寄与しているのではないか。
- ・HITOTEMAなども活用し、就職のみならず4年制大学まで幅広い進路に対応できる学校としての展開を強めていけばよいのではないか。
- ・部活動は就職する上で精神面や態度面でやはり大きな効果があるので、継続して取り組んでほしい。

- ・那珂川町役場など公務員への就職を定期的の実現させることで学校と地域との連携も深めることができるのではないか。
- ・具体策については、個に応じた指導を丁寧に展開しているが、今あるものを継続していくとともに負担のない程度で外部との連携しながら具体策を挙げていくことが重要ではないか。
- ・進学や就職に向けたガイダンスを支援してくれる企業があるが、部活動などを活動していない時間などを対象に行うことも有効ではないか。

[2班]

- ・3つの提案が挙がった。1つ目は大田原市で絵手紙を指導してくださる方がいらっしゃる。他校でも実践済み。本校でも取り入れてはどうか。2つ目は町との連携において、馬頭高校生がよりイニシアチブをとり、イベント、ワークショップなどの企画を立案し、町が支援するような試みを考えてみてはどうか。3つ目は、町伝統のまほろば太鼓に取り組むのはどうか。
- ・実現するための具体策としては、3つすべてに共有することになるが、那珂川学、総合的な探究の時間、各教科の年間指導計画の中にいかに有益に組み込めるかを検討することが必要になる。職員数やすでに継続的に取り組んでいる課題等を総合的に考慮に入れて取捨選択していきたい。

[3班]

- ・普通科のアピールに関して、本校ホームページの那珂川学の取り組みに関するページが改善の余地がある。更新があまりされていないことや行事の実施時期や活動内容がバラバラであり、整理されていない点など改善した方がよいのではないか。
- ・那珂川学やインターンシップをどのように進路実現につなげていくかが重要である。
- ・伝統芸能で地域おこしをやっているところもある。少子高齢化の問題を抱えた那珂川町で、HITOTEMA を活用して小中高大を連携した地域おこしにつなげていくことも検討できたらよいのではないか。
- ・本校として何が求められているかという点において、中学生の中堅層をいかに本校に引き込むかが重要といえるので、本校の魅力的なコンテンツをいかに伝えていくかに取り組んでいたきたい。

若園議長：ご提案

- ・討議の内容からまとめると、生徒に対してどう指導していくかということと、外向きにどうアピールしていくかの2点に集約されるのではないか。
- ・将来像を考えるとあまり楽観ができないというのが共通する認識ではないか。宇都宮大学においても全国区で募集活動を行っている状況である。本校においても新しい手を打ち出していかなければならないと考える。皆さんのお知恵をいただきながら進めていければ。
- ・話し合われた内容を埋もれさせないように、次回、何らかのご回答を頂戴できればと考えるのでよろしくお願いします。

5 その他

第3回学校運営協議会日程について

青木教頭：説明

- ・次回第3回は年明け1、2月に実施予定である
- ・第4回の運営協議会は地域連携活動発表会の見学に替えさせていただく。

6 閉 会